

中央検査室

【概要】

中央検査室では、臨床側へ迅速で正確な検査結果報告に努め、患者さんに安全で質の高い医療を効率的かつ継続的に提供する。

【人員体制】

臨床検査技師（常勤）35名（内1名 育休）、臨床検査技師（非常勤）1名、事務（常勤）3名、事務（非常勤）2名、准看護師（非常勤）2名（平成29年3月31日現在）

【管理職】

課長1名、主任3名、副主任4名、調査役（前部長）1名（平成29年3月31日現在）

【平成29年度の取り組みおよび実績】

平成29年度の目標に各部門の底上げ、検査件数の増加、インシデント報告数増加による医療安全の向上を挙げた。

11月に輸血機能評価認定制度（I&A制度）の認証を取得した。

生理検査	平成27年	平成28年	平成29年
心電図	15,186	16,099	17,341
ホルター心電図	599	562	569
呼吸機能検査	6,373	6,827	6,947
脳波検査	133	109	104
聴力検査	9,632	9,480	9,402
腹部超音波	6,337	6,119	6,445
体表超音波	3,377	3,544	4,246
心臓超音波	3,680	3,959	4,172
簡易 PSG	53	40	37
精密 PSG	26	20	25
ABI・PWV	484	514	587
採血	56,103	58,709	57,983

検体検査	平成27年	平成28年	平成29年
一般	81,755	82,653	81,985
血液学	259,788	266,911	259,357
微生物	19,184	12,766	7,943
微生物（院内）	—	8,418	14,976
生化学Ⅰ	144,339	146,116	145,325
生化学Ⅱ	10,135	122	199
免疫血清	129,436	120,190	109,666
免疫血清（院内）	43,313	71,239	80,596
免疫血清（院内輸血）	—	9,491	17,579
薬物	933	975	914
外注	81,464	75,707	72,764

内視鏡検査	平成27年	平成28年	平成29年
上部消化管	3,333	3,023	2,947
下部消化管	2,529	2,416	2,197
ERCP	247	225	220
胃瘻造設	67	65	41
カプセル内視鏡	16	15	11

病理検査	平成27年	平成28年	平成29年
迅速標本	206	192	186
組織標本	3,965	3,362	3,485
細胞診標本（婦人科）	4,733	4,553	4,755
細胞診標本（その他）	1,695	1,527	1,315
免疫	657	621	728

婦人科部門	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年
TESE	8	4	8
人工授精	42	68	82
体外受精	11	28	15
顕微授精	21	25	29
融解卵	18	21	41
胚移植	35	24	47

【学会発表】

- ・第 65 回日本輸血・細胞治療学会総会 1 演題
「当院の輸血部立ち上げまでのとりくみ」
- ・日本臨床検査自動化学会第 49 回大会 1 演題
「全自動輸血検査装置 IH-500 の導入について」
- ・第 65 回日臨技中部圏支部医学検査学会輸血細胞治療部門企画「院内輸血教育を実施して」
- ・第 33 回岐阜県病院協会医学会 6 演題
「当院で経験した消化管間質腫瘍 (GIST) の細胞形態学評価」
「当院の細菌検査院内化の取り組み」
「糖尿病神経スクリーニングと自覚症状との関連性」
「当院で経験した右心系感染性心内膜炎の 1 例」
「非特異的な症状を示した徐脈性不整脈の 2 例」
「携帯型 PSG 検査でチェーンストークス呼吸を記録できた 1 例」
- ・第 64 回日本化学療法学会 東日本支部総会 1 演題
「尿と血液培養結果について臨床医と連携し早期診断に至った 1 症例」
- ・第 29 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 2 演題
「多剤耐性緑膿菌院内感染での細菌検査室の対応」
「細菌検査結果をもとに臨床医と連携し早期治療に至った 1 症例」
- ・第 70 回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会 1 演題
「輸血機能評価制度 (I & A 制度) の受審までの取り組みと効果について」
- ・第 33 回日本環境感染学会総会・学術集会 2 演題
「手指衛生剤使用後の簡易効果判定の検討」
「慢性期病棟における多剤耐性緑膿菌アウトブレイクでの細菌検査室の対応」

- ・岐阜県医学検査学会 4 演題
「高感度トロポニン T の基礎的検討」
「超音波検査が診断に有用であった胆嚢穿孔の 1 例」
「血液培養検査と心エコー検査との相関が認められた感染性心内膜炎の一症例」
「当院における尿培養からの VRE 検出の検討」

【認定資格】

- ・超音波検査士：5 名 (日本超音波医学会)
- ・認定心電検査技師：2 名 (日本不整脈心電学会)
- ・血管診療技師：1 名
(日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会、日本動脈硬化学会)
- ・細胞検査士：3 名
(国際細胞学会 2 名、日本臨床細胞学会 3 名)
- ・認定輸血検査技師：1 名
(日本輸血・細胞治療学会)
- ・認定臨床エンブリオロジスト：2 名
(日本臨床エンブリオロジスト学会)
- ・体外受精コーディネーター：1 名
(日本不妊カウンセリング学会)
- ・生殖補助医療胚培養士：1 名 (日本卵子学会)
- ・消化器内視鏡検査技師：1 名
(日本消化器内視鏡技師会)
- ・栄養サポート (NST) 専門療法士：1 名
(日本静脈経腸栄養学会)
- ・細胞治療認定管理士：1 名
(日本輸血・細胞治療学会)
- ・二級臨床病理技術士 (病理学)：1 名
(日本臨床病理学会)
- ・二級臨床病理検査士 (微生物学)：1 名
(日本臨床検査同客員)
- ・特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者：3 名
(岐阜県労働基準協会連合会)
- ・有機溶剤作業主任者：2 名
(岐阜県労働基準協会連合会)

【今後の展望】

平成 30 年度は、検体検査の院内化を実施するとともに、各部門毎での QC 活動・5S 運動による業務の効率化やインシデント報告数増加による医療安全の向上を図る。

〔文責：後藤幸雄〕